



# さい帯血バンク NOW

## 第24号

2005年7月15日発行

日本さい帯血バンクネットワーク

発行者：鎌田薫(会長)

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階

TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

## 輸血学会でもさい帯血

5月26日から28日まで、千葉・舞浜で第53回日本輸血学会総会が開かれました。1日目の夕方、さい帯血の品質保証をテーマに「さい帯血移植セミナー」があり、会場の一角では3日間、パネル展示などでPRをしました。

初めにNETCORDでの現地査察と評価を推進しているWarkentin先生から、さい帯血バンク組織と施設認証のための調査ポイントについて詳細な発表がありました。本邦からは佐藤薫氏(東海大学さい帯血バンク)と松本加代子氏(京阪さい帯血バンク)から、品質管理への取り組みや手技の検証について発表がありました。総合討論では一般参加者からの質問も多く活発な意見交換が行われました。

NETCORDには多くの国のさい帯血バンクが参加しています。多施設での技術的水準を保証するため、現地査察と施設認証の制度が取り入れられています。さい帯血バンクによってドナーの追跡調査の程度が異なることや、おそらく検査データも施設間差があるであろうことも勘案しつつ、相互の意志疎通を促進し将来に向けて協調体制を作っている、と感じられました。

日本さい帯血バンクネットワークでは、事業評価委員会による現地調査や第三者評価がこの機能を果たしているといえるでしょう。ネットワークもこの5年余りの間に意志疎通が良くなったと体感していますので、移植医療の発展のためにこれからも協力していきたいところです。

学会会場はディズニーランドの隣

です。午後8時25分に終了して花火観賞が計画されていましたが、熱のこもった議論が続いたため、花火は音だけを聞くことになってしまいました。3時間近い発表と議論への参加に感謝です。



学会参加者にさい帯血バンクをPR

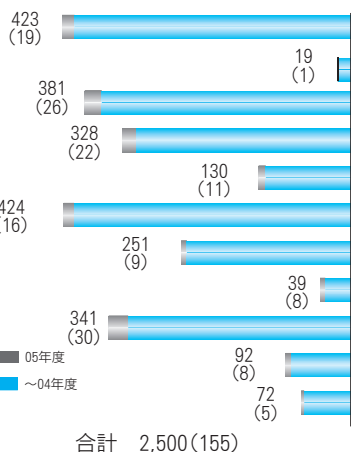
### DVDの上映も

日本さい帯血バンクネットワークとしては、この学会にパネル展示を行うスペースいただき、さい帯血バンクのPRを行いました。

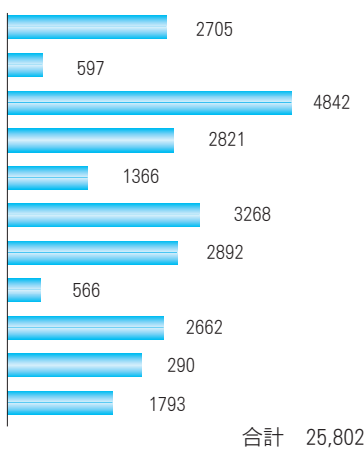
まず、ポスターとして、各さい帯血バンクで保存しているさい帯血の数とさい帯血移植件数の推移を展示しました。また、配布資料として、広報誌「さい帯血バンクNOW」23号、リーフレット「新しい生命がもうひとつのいのちを救う」、DVD「さい帯血をご理解いただくために」の3種類を、映像として配布DVDを上映しました。

少し奥まったスペースでの展示となりましたが、休憩する場所に展示ができたため、休憩にいらした来場者の皆さんにご覧いただくことができ、まずまずのPRを行うことができました。

#### ●各バンクの供給数



#### ●保存さい帯血の公開数



(注) ① グラフデータは2005年6月末現在

② 左のグラフの数字は累積の供給数、カッコ内が05年度供給数

③ 左のグラフは累積の供給数であり、複数さい帯血同時移植(2本のさい帯血に同時に移植)が11例行われているため、累積実施移植数は、2393例。複数さい帯血同時移植は、02年度3月、03年度3月、4月、5月、7月、10月、2月、04年度4月、5月に実施。

第1回  
通常総会16年度事業報告など承認  
会計報告は継続に

日本さい帯血バンクネットワークでは6月24日に都内で今年度の第1回通常総会を開催しました。この総会では昨年度の実業報告と会計報告のほか、いくつかの議案が審議されましたが、会計報告については継続審議となりました。

総会に諮られる議案はすべて事前に、総会を構成する正会員に送付されますが、第3号議案「平成16年度会計報告について」は当日、事務局より「未払金の計上に一部間違いがあった」として議案書の修正が提示されました。

これに対して、その場で修正部分の監査をした上で議案の審議を行う方向性が検討されましたが、一部の監事から「認められない」という指

摘がありました。これにより、再監査を行い、臨時総会を開催して再度審議（または書面評決）することになりました。

その他に総会で承認された議案等は次の通りです。

## ・バンク代表の交代

北海道臍帯血バンクと東京都赤十字血液センター臍帯血バンク代表に異動がありました。

## ・平成16年度事業報告

## ・倫理委員の選任

## ・新規調製保存施設の承認

東京臍帯血バンクの3つ目となるさい帯血分離保存のための四つ木施設が承認されました。

## ・さい帯血提供児の白血病発症例報告様式

白血病を発症した患児がさい帯血を提供していた場合に、主治医にその報告をしてもらう案内文等についての書式を定めました。

次世代デザイン会議発足  
さい帯血バンクの全体像提言へ

わが国における公的なさい帯血バンク事業は、1999年8月に「5年間で2万個のさい帯血を保存する」ことを目標に、日本さい帯血バンクネットワークが発足したことによりスタートしました。

## 目標超える保存数

それから間もなく6年目を迎えようとしている現在、当初目標数を超えるさい帯血の保存が実現していますが、今後はどのような形でさい帯血バンク事業を展開していくのかを本格的に検討することになりました。

## 3年前に対応提言

このため、日本さい帯血バンクネットワークでは事業運営委員会の小委員会として「さい帯血バンク事業次世代デザイン会議」を設置することになり、6月19日に第1回の会議を

開催しました。

私たちは3年前にも「さい帯血事業の中長期展望を考える小委員会」が「明日のさい帯血バンクのために」と題する報告書により、急増するさい帯血移植への対応の提言を行いました。これにより、その後の保存さい帯血細胞数最低基準が倍に引き上げられるなど、現在の事業に反映されています。今回の次世代デザイン会議は、これからどういう形でさい帯血バンク事業を運営していくかを、細部はともかく、全体像としてのグランドデザインを提言していくことにあります。

## 7委員が半年審議

会議の委員は事業運営委員会から4人、事業評価委員会から3人の委員が参加し、必要な場合はその分野の専門家にも参加してもらいながら、

課題の検討を行うことになっています。今後は6カ月程度にわたり、月に1回の会議を重ね、来年早々には報告書をまとめることとなります。

最初の会議では、議長に西平浩一氏（事業運営委員）が選出され、これから検討すべき事項（別記）などが話し合われました。なお、次世代デザイン会議での検討事項は、逐一、事業運営委員会に報告されることになっています。

## ■検討すべき課題■

- ・さい帯血バンク運営の財政的問題の検討
- ・保存さい帯血の品質の検討
- ・供給システムの検討
- ・さい帯血バンクのサイズ（規模）の検討
- ・ネットワークの組織の検討
- ・その他の課題の検討



## 16年度の 事業評価

# 全体的にほぼ適正

平成16年度の評価事業が事業評価委員会によって終了しました。「第三者評価のテーマと委託先の選定」と「現地調査による各バンクの評価」が委員会の2本柱です。第三者評価は「個人情報保護」をテーマに、みずほ情報総研（株）に委託しました。委員会による各バンクの評価については、本年3月24日の総会で鎌田会長あてに報告されており、その主な内容を紹介します。

全国11バンク計14施設に対する現地調査は昨年11月から12月にかけて行われた。方法は、事業評価委員2人が各バンクを訪問し、チェックリストに基づき書類および調製・保存等を現地調査。今回は「さい帯血提供の手順」を重点評価項目とした。

なお、今回は現地調査企画小委員会が現地調査前に、重点項目の調査票、その他チェックリストの項目、現地調査実施マニュアル等、調査の方法・内容について細部にわたる検討を行った。現地調査後は各バンクの調査報告書の内容を整理し、「横並びの評価」を行うための資料を作成した。

## 業務評価の総括

全体として各バンクの業務はほぼ適正に運営されていた。特に事故もなく、保存公開数、提供数も順調に増加している。前年度の調査で指摘された要改善事項についても概ね改善されている。今回各バンクの指摘事項はこれまでの調査に比べ少なくなっており、内容的にも深刻な問題点は見当たらない。

全体の印象としては、個々のバンクで解決すべき問題というよりは、

ネットワーク全体で解決すべき課題、バンク連絡会・技術交流会等で協議するべき問題が多くなっており、実務者同士の知恵を集めてより良いさい帯血バンクを推進していく段階に入ったと感じられる。

平成17年度は、事業運営委員会のみならず、バンク連絡会・技術交流会を積極的に開催し、バンク毎に様々な対応となっている事項について可能などころから可能な範囲で、一つひとつ統一化・標準化に向けて協働して邁進されることが期待される。

## 検討要する事項

### ■さい帯血提供手順等に関する調査について（今年度重点項目）

- ・さい帯血提供の手続きや書類は各バンク様々で、移植施設での混乱の原因になりかねない。可能などころからの統一化が望まれる。
- ・適応判定では一部のバンクで判定委員会の委員構成、記録の不備、判定手順の曖昧さ等で指摘があった。
- ・出庫したが移植に至らなかった事例が多数あることが明らかになった。貴重なさい帯血が無駄になっている。それぞれの事例について検証が必要と思われる。

・移植後調査で各バンクの負担が大きくなっている。移植例の急増により、今後ますます負担が増大することが予想される。ネットワーク全体で一括して取り組んでほしいという要望が多かった。

・移植病院からの検査費用の支払い状況が悪く、回収までにかかり時間がかかっている。患者死亡により移植に至らなかった場合は、バンク側の持ち出しとなっている。

### ■記録等について

・複数のバンクで委員会規約・議事録や手順書の不備、教育訓練の記録がない等、書類管理上の指摘を受けていた。

### ■温度管理

・複数のバンクで、採取施設での保存と搬送時の温度管理方法での指摘があった。この事項は昨年と同様の指摘があった。

### ■バリデーションデータ

・バリデーションデータの記入様式の統一化について複数のバンクから要望があった。

### 訂正

23号3面で骨髄バンクの2004年度移植例を「891」としたのは、「851」の誤りでした。



すこやかに、幸せに。  
明日への夢、描きたい。

**NIPRO**

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

**NIPRO**

ニプロ株式会社  
大阪市北区本庄西3丁目9番3号





# 「社会への還元」大切に

採取病院  
訪問記⑧

## 東京臍帯血バンク

東京臍帯血バンクは1997年9月に財団法人献血供給事業団によって設立、運営されています。分離保存施設が東京都内に3カ所、採取医療機関は4つの大学付属病院が含まれ、全部で9施設。都内だけでなく千葉県、埼玉県の病院も協力しています。

また、採取施設から保存施設までの搬送はボランティアの手によって行われています。

今回は東京臍帯血バンクの中でも特に採取数の多い愛和病院、山口病院を訪問しました。

### 女性好みの内装に

愛和病院は埼玉県川越市にあり、年間2000人以上の出産がある比較的規模の大きい産婦人科中心の病院で、埼玉県唯一の採取協力病院です。女性好みの内装の施設やオリジナルグッズなど独自のサービスに力を入れているだけでなく、チャリティーバザーや「おぎゃー献金」へも積極的な取り組みをしており、ボランティアに対する意識が高いことがうかがえます。

### 全スタッフが関与

採取施設としては2年目ですが、採取に関わる看護師の平野美香さんは「初めのうちは書類のチェックや採取などのプラスの仕事に手間取ることがあったけれども、今ではさい帯血に関わる作業だけが大変という

感じではありません」といいます。さい帯血採取に関わる仕事はスタッフ全員が関わっているそうです。



スタッフとさい帯血を提供いただいた竹内正美さん親子を囲んで。「初産で帝王切開だったのでとても必死で、さい帯血採取は見ることができませんでした」

「採取する側として希望される方全員の採取ができないのが非常に残念。こちらもっと努力していきたい」と同院の竹内久彌先生は話していました。

### 当初は説明に苦労

千葉県船橋市にある山口病院も愛和病院と同じ年間2000人の出産を行う病院です。東京臍帯血バンクが始まって間もなく採取病院となり今年8年目を迎えました。お話をうかがった助産師の水元陽子さんによると初めころからお母さんから多くの協力がいただけたものの、「さい帯血」という言葉自体が知られていなかったために誤解もあり、説明に苦心することもあったそうです。

現在ではテレビCMの効果もあり、かなり認知されていて、以前よりも

理解されやすい状況になったと感じているそうです。「採取をし始めた当時のことを考えるとさい帯血がこんなに広まって、患者さんに使われるようになるとは思っていませんでした。少しでも量を多く採取することができればこの先にいる患者さんの役に立つ、ということを常に意識してがんばっています」。

そうして続けていくことで技術向上だけでなく採取量も増えてきたそうです。

### 強制にならぬよう

スタッフ全員で気をつけている点としては、お母さんの気持ちの負担が大きくならずに気軽に協力してもらえるように、さい帯血に関する説明をしつつも強制にならないようにしているそうです。

「採取の協力はあくまでも妊婦さん



山口病院スタッフが集まって

の善意です。気持ちよく同意をいただきたいと思っています」とのことです。

どちらの病院でも採取施設として協力している以上は社会に還元しようという「気持ちが大切」と語っていたのが印象的でした。

### あ と が き

今後、さい帯血提供者（妊婦さん）の海外渡航歴で、1980年から96年までイギリスに1日以上滞在した方からは採取できないことになりました。これは変異型クローンフェルト・ヤコブ病の国内発症例を受けて厚生科学審議会造血幹細胞移植委員会が検

討を行い、厚労省臓器移植対策室が決定したものです。一方、骨髄バンクのドナーの場合は、その緊急性に鑑みて、移植患者に十分な説明をして同意をしている場合には、今回の渡航条件は問わないことになりました。さい帯血の場合、当初目標を達しているなど、より安全性が重視されることになりました。

ご寄付をいただきました

匿名希望（京都府） 5000円  
移植後3回目の誕生日を迎える事ができました。ありがとうございます。

<寄付受け付け専用口座>

郵便振替口座番号 00180-9-57390  
口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク